

第2回奈良市子ども・子育て会議の概要	
開催日時	平成25年8月30日(金) 午前10時～正午
開催場所	奈良市役所 北棟2階 第16会議室
議 題	1. 奈良市子ども・子育て会議について 2. 子ども・子育て支援新制度と奈良市の取組状況について 3. 部会の審議報告と奈良市版ニーズ調査票について 4. その他
出席者	出席委員12人(欠席委員1人)・事務局8人
開催形態	公開(傍聴者:2人)
担当課	子ども未来部子ども政策課
議事の内容	
1. 奈良市子ども・子育て会議について 事務局より子ども・子育て会議の概要と運営方法について説明を行った。	
〔質疑・意見の要旨〕	
大方会長	消費税増税が決まれば、平成27年度に新制度がスタートするので、タイトなスケジュールになるのが現実です。審議の方法につきましては、基本的に本会議を反映しますが、審議状況によっては私と事務局で検討、決定していかなければいけない事項が発生するかもしれませんので、ご承知いただければと思います。
2. 子ども・子育て支援新制度と奈良市の取組状況について 事務局より子ども・子育て支援新制度の概要について、奈良市の現状の取組状況と合わせて説明を行った。	
3. 部会の審議報告と奈良市版ニーズ調査票について 事務局より8月9日に開催した「奈良市子ども・子育て会議事業計画策定部会」の審議結果の報告と、奈良市版のニーズ調査票(案)について説明を行った。	
〔質疑・意見の要旨〕	
藤本委員	ニーズ調査の回収率は、何か今までの資料を基に出しているのですか。
事務局	前回のニーズ調査の実績や他市町村の実績も参考に45%と設定しておりますが、督促状の送付やニーズ調査の種別などを工夫して最低が45%になるような形で取り組みたいと考えております。
藤本委員	待機児童解消加速化プランということで、メインになるのが小規模保育事業とおっしゃっていましたが、保育園の現場で今後どうなるのか不安なのは、保育士の確保です。奈良市は保育士の確保をどのように進めているのでしょうか。公立の保育園でも保育士の数が足りないと聞いています。

私どもは保育士の定着のため、働くことが楽しい保育園にしたいと力を入れていますが、いずれにしても保育士は足りません。結婚したら辞める人も多く、育児休暇等で引き止めを凶っていますが、子ども達を支援していく中で一番大きな問題ではないかと考えます。奈良市に住んでいる人や、奈良市の大学等に通っている人を、他府県に流れることなく地元にしかりと定着していくことを考えていただきたいと思います。

大方会長 小規模保育事業を奈良市としてどう取り組んでいくかということですが、既に運営されている民間の保育園からすれば危機感をお持ちで、先行き不透明な部分としてのご質問かと思えます。

もう一つは、保育士確保です。潜在的なニーズを掘り起こすことは非常に大事ですし、ただニーズを掘り起こすだけではなく、研修等をしていかないと、後からいろいろなトラブルや問題が起こると思います。

現状で結構ですので、事務局の今のお考えをお願いします。

事務局 保育所の量的な拡大を図る中で、市内では保育士の不足が見込まれるということから、まずは給与の面に光を当てるという形を取っています。従来から奈良市では、市単独で補助金という形で実施していますが、今回、国の加速化プランに位置付けられ、また、安心こども基金にも位置付けられています保育士等処遇改善臨時特例事業にも手を挙げまして、保育士の賃金状況が改善するように取り組んでおります。

事務局 研修については、今年度は公立保育園1園で潜在保育士を集めて、一日の園の保育状況を見ていただき、保育園で働くことを働きかけております。来年度は、就労定着の支援に向けて研修を計画しております。

事務局 地域型保育事業の中で、家庭的保育については、奈良市では平成25年度のできるだけ早いうちに、公立幼稚園の余裕教室を使いまして、定員5名で3か所で実施していきたいと考えております。

藤本委員 新設園が毎年建っていますが、現場の問題は人なので、そちらに力を入れていただきたいと思います。もう一点、保育園として心配なのは、待機児童が多いということとでどんどん作ってしまって、少子化が進んで、保育園自体が余ってきて、近い将来そうなるのが見えているのではないかとことです。前回もお話させていただきましたが、やはり中長期的なビジョンを持っていただきたいと思います。

栗本委員 奈良市の待機児童解消の取り組みということで、現状3か所で預かり保

育を行っているということですが、家庭的保育と預かり保育の違いがよく分かりません。幼稚園で預かり保育をした場合は、6人以上預かる場合があるのではないかと思います。なぜ家庭的保育を選んでいるのか教えていただきたい。

事務局 家庭的保育と預かり保育は、基本的には全く別物と考えていただければと思います。公立幼稚園では、全園中6園が預かり保育として17時まで実施しています。家庭的保育を奈良市として初めて実施する中で、他都市ではマンションの1室を使っているところもありますが、奈良市では、マンションの代わりに公立幼稚園の空き教室を使うということです。

対象年齢ですが、預かり保育については、公立幼稚園が4～5歳、私立幼稚園が3～5歳という形です。家庭的保育に関しては、基本的には0～2歳ですが、奈良市で行います家庭的保育については、使用する公立幼稚園が4歳からしか受け入れていない面がありますので、当面の間、0～3歳で実施させていただきたいと思います。

北岡委員 ニーズ調査に関して、友達同士の悪い癖というのがあり、せっかく意見を聞かれても何も言わずに決まったことに対して批判してしまうところがあります。せっかくニーズ調査をするのであれば、ひと言「あなたの意見が反映されます」「あなたの意見を聞かせてください」と書いていただけると、もっと自分の意見を言いたいなという気持ちになると思います。

以前、同じような調査が届いたことがありましたが、漢字だらけ、文字だらけで、双子の子育てをしている途中だったので、寝不足の自分には読んだら寝てしまうなと思いましたが、今回は鹿のマークが入っていて見やすく、子どもと一緒にアンケートを答えていけるので、もう少しイラストを入れてもいいのかなと思いました。

最後に意見を書く欄があるのは、母親からすると、たくさん言いたいことがあっても言う場所がないので、すごくいいことだと思います。可能であれば、「あなたの意見を聞かせてください」等を、封筒にも書いていただければと思います。

亀本委員 0～2歳、3～5歳、小学生の各調査票に共通している項目ですが、0～2歳では16ページにある育児休業関係で、問25～6で母親と父親に聞いている項目があります。選択項目に「4. 人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」とありますが、保護者の意見を聞くと、小さな会社では厳しく、制度自体が周知されておらず、一旦退職を勧められたり、何とか育児休業を取っても1年以内の復帰を要求されたりします。会社の都合に合わせるためという表現でないと、ニュアンスとしては自分が合わせて

いると感じてしまいますので、表現を変えていただきたいと思います。

岡本委員 地域の子育て支援事業の状況ということで11ページの「下記の事業を知っていますか」という項目ですが、子ども・子育ての事業は13事業ありますので、網羅されているような形に追加していただければと思います。例えば「②保健センターの情報・相談サービス」等は雑に感じますので、事業名は何かとか、こんにちは赤ちゃん事業や一時預かり事業等、抜けている事業もありますので、場所があるのであれば入れていただきたいと思います。

児童館も入っていますが、図書館でも子どもの読み聞かせ等をしていると思いますので、保育だけに限らず地域の子育てをしている事業を盛り込んでいただけたらと思います。

大方会長 最後にバンビーホームについてですが、これだけ保育所、幼稚園の保育が長時間化してくるということは、長時間保育を受けた子どもが、長時間保育が当たり前と思って小学校へ上がっていく時代がすぐそこに来ているので、低学年と中学年と高学年では、一緒にいればいいというわけではないと思います。ユニット的なことも含めて、ニーズ調査にすぐに反映させるかは事務局に判断していただきますが、見通しを持って考えていただきたいと思います。

ただ単に預かればいいということではなく、人間教育をしているので、ここでの議論はできませんが、奈良市の次世代育成について事務局は見通しを持って、何のための家庭的保育なのか、待機児童解消を含めて、数的なものもカリキュラムも含めてどこかで考えていけたらと思います。幼保の連携も始まればカリキュラムで困っているのが現実なので、その点もどこかで検討していただければと思います。

4. その他

奈良市より次回会議の日程について説明を行った。

資 料	【資料1】奈良市子ども・子育て会議委員名簿 【資料2】諮問書 【資料3】奈良市子ども・子育て会議について 【資料4】子ども・子育て支援新制度と奈良市の取組状況について 【資料5】部会の審議報告と奈良市版ニーズ調査票について 【資料6】奈良市版ニーズ調査票（0～2歳児保護者用） 【資料7】奈良市版ニーズ調査票（3～5歳児保護者用） 【資料8】奈良市版ニーズ調査票（小学生保護者用）
-----	---